

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アストラポルテ FC土浦		
○保護者評価実施期間	2025年2月11日		2025年3月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2025年3月1日		2025年3月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月24日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	天候や気候に左右されない広い活動スペースの提供。	基準以上の十分な広さを確保しているので、室内でものびのびと体を動かすことができ、天候や気候にも左右されずに活動ができる。 冷暖房設備(エアコン)も完備しているので、快適に活動することができる。	照明器具を取り換え、明るさを確保する。 防護ネットを設置し、ボールの飛び跳ねを防ぎ、安全性を向上させる。 (食事時など)折りたたみテーブルやイスを活用し、臨機応変にお子様がいることのできる場所を確保していくよう工夫する。 現在用意しているソファだけでなく、(体調不良時に休める)簡易的なベッドも用意したい。
2	「今できていること・得意なこと・うまくできたこと」に注目し、自己肯定感を高めることができるよう支援を組み立てている。	常にアンテナを広くそして低く張り、褒めるチャンスを見逃さないように接することを心がけている。 『できた!』『これでいいんだ!』といった些細な成功体験を見逃さないようにしている。	(引き続き継続して)成功体験を逃さず、しっかり褒めて伸ばしていく。 現在行っている活動に加え、まだまだ体験したことのない活動にも挑戦し、お子様の可能性を広げていく。
3	お子様の「本音」を大切にしている。	お子様一人一人のお話を「受容・傾聴・共感」の姿勢で丁寧に聞き取るようにしている。 本人の「納得感」も大切にすることで、その後の行動変容をスムーズに行うことのできるよう目指している。 次回困難な場面に遭遇した時、どのようにすれば良いのか振る舞い方(対処方法)を一緒に考えている。	寄り添い感を維持したまま、職員の技量を向上していく。 対応の成功例・失敗例を共有することで、全体の共有力と技量の底上げを図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	研修の実施やマニュアルなど、保護者の方にきちんとお伝えできていない部分、共有できていない部分がある。	各種訓練や研修、マニュアルなどの実施状況を保護者の方へ分かりやすい形で情報発信が不足している。	アプリ、HPやSNS、事業所新聞などで情報の周知をより行う。 また、面談の際に(お気軽に)手に取ってご覧いただけるように資料をお手元に用意するなど工夫を行いたい。
2	職員の対応力や療育での支援方法、課題解決策の立案力。 新しい職員が増えた際の教育が不十分になりがち傾向。	職員間での共有や事業所運営の課題が個人個人の力に寄る場面がある。 支援者としての個人個人のスキルを伸ばし、それぞれの長所を発揮し、弱みを補える仕組みと『学びの場』が必要である。 受け身ではなく、学びに行く姿勢が少なく感じている。	マニュアルの理解度の向上。 長期的な成長を促進できる環境を作っていく必要がある。 (先輩職員が後輩職員を積極的にOJT教育していく環境作りや、イーラーニングなどのツールの導入・検討)
3	地域との交流が不足している。 施設内での活動が多くなりがちで、地域資源を十分に活用できていない。	他施設や地域団体との交流機会を設ける時間的余裕がない。 地域イベントへの参加ハードルが高く、積極的に関与する体制が整っていない。	地域の方々との交流イベントを企画していきたい。(夏祭りや緑日の開催など) 近隣の公園や商店街での活動を取り入れ、地域住民との接点を増やす。 ボランティアの受け入れ、参加を進め、地域住民が関与しやすい体制を作る。